

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園鵜沼神明	種別：認可保育所	
代表者氏名：伊藤 伊津美	定員（利用人数）： 80名	
所在地：〒251-0021 神奈川県藤沢市鵜沼神明5-8-12		
TEL：0466-52-4601	ホームページ：https://www.like-kd.co.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2003年10月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社		
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員 8名	
専門職員	（専門職の名称） 名 調理師 1名	
	看護師 1名	
	栄養士 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6室	事務所、調理室、休憩室、更衣室、備品庫、シャワー室（2室）、園児用トイレ2か所、職員用トイレ3か所、調理室専用トイレ1か所

③ 理念・基本方針

【保育理念】 のびやかに育て だいちの芽

【保育方針】 みとめ愛（信頼） みつめ愛（安定） ひびき愛（共感）

④ 施設・事業所の特徴的な取組

・春の懇談会では、1年間の保育の様子を伝えると共に、写真でこの1年の子どもの活動や成長した姿について発信。  
保護者の視点から、子どもの1年の成長が理解できるようにしている。また、職員が実施している研修の内容を1部取り入れ、子どもとの関わり方のヒントになるよう工夫している。後半は、子どもも一緒になりドッチボールや制作などに取り組み他家族との交流の場となるようにしている。

・クラス別の保育だけにとどまらず、事務所、給食室、他クラスとの交流も出来るような雰囲気作りをしている。また、保育士だけでなく、全ての職員が人的環境と捉え、子どもが様々な職員との触れ合いを通してより刺激を受け成長が育まれるようにしている。

・毎年「ビーチクリーン（環境学習）」を取り入れている。現在コロナ禍の為海岸清掃は中止としているが、藤沢市の環境美化財団の担当者による「環境問題」について学ぶ機会を設けている。ゴミ問題においては、海洋生物の命が奪われていること等映画を見たり、ぬいぐるみを使って解説してもらったりと大変有意義な時間となっている。

・6月に行われる「にじいろ縁日」では5歳児が企画運営を行っている。クラスミーティングを行い係りや制作するものを決め、日々取り組む。当日はそれぞれ、出店の当番をしたり、銀行係り、カメラ係り、案内係りなど自分で決めた担当に責任を持つ

て取り組む姿がある。また「おきゅうりょう」をもらい後日買い物をして楽しんでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日） ～ 2022年12月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

**クラスの枠を超え全職員が連携して子どもたちを見守り支援している**

自室での遊ぶことを強制せず、物足りなさを感じた子どもは一つ大きいクラスに行って遊具を楽しんだり、制作物が仕上がった時は、全クラスに見てもらいに行ったりと各保育室の枠を超えた活動が展開されている。

全ての職員が人的環境という考えの下、職員間の連携がとれているため、安心して子どもが事務室に必要な物を取りに行く、調理室に質問をしに行くなど日々の生活の中で行われ、それぞれの場所で子ども達に関わり支援をしている。

**子どもの自主性を尊重している**

乳児期に受容的態度で接してもらった子どもは、大人への信頼関係ができ、その後も応答的態度で保育され、安心して自らの考えや意見を表現すること、自ら考え行動できるようになっている。クラスミーティングの活動、朝の会の話し合いなどで意見を言うことや、事務所や給食室に行き保育士に頼まれた要件を話すなど生活の中で言葉で表現できる機会を作っている。「にじいろ縁日」の取り組みや午睡明けの園内放送は、子ども達の自主性の実践となっている。

**食育に取り組んでいる**

栄養士を中心に季節の食事や子どもたちが育てた野菜をメニューに取り入れ、食への興味や楽しさを感じてもらえる工夫をしている。食事へのこだわりとして・環境ホルモンの少ない陶器の食器を使用・食事はお茶碗、お椀、お皿に盛り付けて提供・子どもが食材に触れる機会を大切にする・毎日の食事やおやつは手づくりが基本などを基本とするが、特に食材に触れる機会として0歳児から衛生面に配慮し、食材を見せ、触れるなどの活動を行い、1歳児・2歳児でトウモロコシの皮をむくなどその年齢に合わせた下処理を行い食に親しむ取り組みを行っている。また、子どもたちが育てた野菜はどんなに少量でもそのクラスの給食時に提供され味わうことが出来るよう工夫している。

今後期待される点

**地域との交流を行い、保育園の専門性を活かすことが望まれる**

保育園では、園庭開放、育児講座、育児相談、絵本の貸し出しなど地域への働きかけを行っている。しかし、地域の行事に参加したり、地域のコミュニティに積極的に働きかけたりなどの計画的な交流は行われていない。散歩の機会などを利用し、地域の人と積極的に関わり情報把握を行い、地域の課題に保育園の持つ専門性を活かす取り組みが今後期待される。

**OJT研修の仕組みを充実させることが望まれる**

新卒での新入職員は、3月末から法人での教育研修を行い、その後、園に配属される。園内においてもOJT担当を決めてオリエンテーションなどを行い、ある程度の

期間、OJT研修を行っている。OJTシートや各種マニュアルを活用してOJT研修を行っているが、OJTの期間などの具体的な目標を設定していない。ほかの職員と同様に園長の個人面談を行い、成長支援シートにて目標設定を行っているが、OJTとしての期間などの目標設定なども設けることが期待される。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けることにより、園全体の運営を見直す良い機会となりました。自分たちの保育に対する思いや考えが、固定概念にとらわれすぎていないか、正しくやれているか、更に良い方法はあるか等々、一度立ち止まり考える機会となったように感じます。

またお忙しい中第三者評価のアンケートにご協力いただいた保護者様にも心より感謝致します。

鵜沼神明園の運営について折に触れご意見を頂戴することはありましたが、改めてアンケートを頂きこれまでにしていた当たり前を、異なる視点で見返すことが出来ました。

これからも一人ひとりのお子様が自信を持って生活できるような環境を作っていくこと、保護者様が安心してお子様を保育園に託して下さい、またご家庭と園が共同でお子様を育てていくことが出来るよう努めて参りたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり